

聖書の集い（第 10 回）

2015 年 3 月 4 日

古本 靖久

1、聖歌 522 番 「かみともにいまして」

2、お祈り

3、聖書 「マタイによる福音書 28 章 16 節～20 節」（新約聖書 60 ページ）

4、今日の内容

「神の守り なが身をはなれざれ」

早いもので、今年度の聖書の集いも最終回になりました。年長さんはあと 2 週間ほどで卒園となります。また年中さんも来年はいよいよゆり組となります。子どもたちの成長には本当に驚くべきものがあります。

今回は最終回ということで、「神ともにいまして」という聖歌(讃美歌)のお話をしたいと思います。

① 神ともにいまして 行く道を守り 天(あめ)のみ糧もて 力をあたえませ

このような歌は、昔の言葉遣いや文字の書き方が出てきますので、歌いながら「この意味何だろう」と思う所もあるかもしれません。例えば「天のみ糧もて」と言われても何のことやら、と思う人もいるでしょう。天の糧とは簡単にいうと神さまから与えられる恵みのことです。神さま、あなたがわたしの道を守ってください、あなたがわたしを養い、生きる力を与えてください、そのように歌っているのです。

みなさんは神さまのことを、どのような存在だと感じていますか。できれば普段はいて欲しくない、でもお願いをする時や困った時だけいて欲しい、そのように考える人は多いそうです。でもキリスト教では、「共にいてくださる」神さまということを強調します。だからわたしたちはどんな時にも神さまにすべてを委ねることができる、そう信じているのです。

② 荒れ野に行くときも 嵐吹くときも みつばさのもとに 守り育みませ

いぶせき雲覆い ゆき悩むときも 愛の光もて 照らしなぐさめませ

わたしたちには荒れ野に行くような寂しい時も、嵐が吹き付ける苦難の時も、うっとうしいほどの雲に包まれどう歩んで良いのかわからない時もあります。でもそのときに神さまは大きな翼を広げた鳥がその陰で雛を守るように、明るい光が温めてくれるように、わたしたちを守り導いてくださるのです。

③ み国に入る日まで み恵み豊かに 行くてを示して 絶えず導きませ

み国に入るとは、神さまの元に行くことです。わたしたちは生まれてから今まで、ずっと神さまのお守りの内に生きてきました。そのことに気が付いても気が付かなくても、神さまはずっとあなたのそばで見守ってくれています。あなたが神さまのことを好きだろうが、好きでなかろうが、神さまはあなたのことを愛しておられます。

みなさんは子どもたちのことを愛していると思います。子どもたちは大きくなって親の元を離れて行きます。でも、親はずっと子どもたちのことを愛し続けます。子どもからの愛が感じられなかったとしても、反抗期になって親に反発していこうとも、親は子どものことを愛するのです。神さまの愛も、同じように思ってください。あなたや子どもたちが人生を歩んで行くその間中、豊かな恵みを与え、行く道を示してくださるように、と祈るのです。

④ また会う日まで また会う日まで 神の守り なが身をはなれざれ

わたしたちは人生の節目で、「別れ」を経験します。子どもたちにとって、小学校にあがる時が初めての大きな「別れ」なのかもしれません。また親御さんにとっても、子どもたちと共に成長したこの時を共有したお母さん友達とお別れするのも寂しいことでしょう。

でも、きっと会えます。また必ず会えると信じ、この歌は歌い継がれてきました。実はこの歌、お葬式の時に歌われることが多いのです。でもそこでも「また会う日まで」と歌う。そこには、たとえ地上での生が終わったとしても、神さまのお守りは決してあなたの身を離れないという強い信仰があるのです。

⑤ 最後に

この一年間、子どもたちと共に考え、歩み、学んできました。思い通りにいかなかったこと、悲しかったこと、涙を流したこと、怒りが込み上げてきたこと、たくさんあったかもしれませんが、でもそれ以上に、うれしかったこと、感動したこと、大声で子どもさんをほめたこと、うちの子は天才なのではないだろうかと思ったこと、たくさんたくさんあったと思います。どうぞ、その一つ一つを大切な宝物にしてください。

来年ゆり組になる保護者の方々、ひまわり組にあがるお母さん方、来年以降もよろしくお願ひします。

皆さん、そして子どもたち一人一人が神さまに愛され、豊かなお恵みを受けて歩んで行けるように、お祈りしております。

日曜学校（子どもの礼拝）	：	毎週日曜日	午前 9 時 30 分から
日曜礼拝（大人の礼拝）	：	毎週日曜日	午前 10 時 30 分から